



学校だより

みつめ みがきあい みらいをひらく 南神の子

南神大寺小学校
11月号
令和5年10月31日



みなかん HP

見守る気持ち、応援する思いが強く伝わりますように

校長 岩田 和也

木々が色づきはじめ、移り変わる四季の様子が感じられます。空気が澄みわたり、突き抜けるような青空が広がる爽やかで過ごしやすい季節となりました。先日は、創立50周年を記念する運動会にたくさんの皆様にご足をお運びいただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様には、多大なるご支援をいただいたことに重ねて感謝申し上げます。また、地域の方々にも、運営に際しご理解とご協力をいただき、無事に会を終えることができましたことにお礼申し上げます。

運動会での子どもの成長は当日だけではなく、それまでの活動過程があり、一人一人が目標をもって積み重ねてきた時間の重みに感動を覚えました。喜び、嬉しさ、悲しみ、哀れみ、共感、健気さ、愛らしさ、同情、驚き、尊敬、達成感、素晴らしさ…様々な感情が押し寄せるなかで、私の心を動かすほどの強い感情となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、感動が届いたでしょうか。また、子ども自身も感動体験を通して、自立心・自主性を奮い起こし、お家の方や友達からの愛情や慈悲にふれて、人間愛や寛容、利他意識に自覚めていきます。学校行事での学びや感動は子どもたちの大切な成長の糧です。

そうした感動を求め、その感動を子ども一人一人や保護者の方々と分かち合いたい、声かけひとつでもいろいろと考えます。運動会の練習で、自信なさげに踊り始めた子に「上手上手」はちょっと嘘っぽかったり、「大丈夫、踊れているよ」だと、やっぱり踊れないと思われていたのかな、と逆に子どもに心配をかけたり。一番子どもの気持ちを後押しできる言葉は何かなとうんと考えます。私が選んだ言葉は、「そう、それでいいんだよ!」という言葉です。「今のままのあなたでいい」という思いを伝え、子どもの気持ちを後押しできる感じがして選んだ言葉です。でも、子どもにかけられる言葉は、その人の個性の中で、うんうんと考えて編み出した声かけの言葉が一番いいのだと思います。ご観覧いただいたお家の方がお子さんを労い祝福する言葉は、お子さんのことを見守る気持ち、応援する思いが強く伝わるように考え抜かれて編み出したことがわかるものばかりでした。そして、それは、その子がそこに「いる」ことそれ自体を心から喜んでいることが伝わる大事な意味が込められた言葉でもありました。「いる」を喜ぶ、存在を認めることが、思いを伝えるためには何よりも大切なことだと教えていただいた時間でもありました。運動会には様々な目標をもって、参加の仕方も自分で選んで努力する子どももいます。また、様々な事情から参加が叶わなかった子どももいます。今の自分や周りの友達のことを考えた上で決断した気持ちや行動を理解し、そうした子どもの存在も精一杯認めたいと私は思います。一人一人違う子どもに思いがより強く伝わるように、「伝える」ことよりも「伝わる」ことを大切に、小さな営みを重ねていきたいと思っております。

芸術の秋や食欲の秋などの楽しい話題に溢れる季節、学校も運動会に終わらず、今後も全校スマイル遠足や学年の遠足、校外学習、創立記念式典・集会など、学校行事での体験のなかで、子どもたちが普段味わうことのできない学びや感動を得られるよう指導・支援してまいります。これからも皆様と各行事でその子がそこに「いる」ことを喜び合い、感動を分かち合えることを楽しみにしております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。